



SDM開設10年記念式典(5月13日開催)の様子

木を見て森も見るSDMの10年

システムデザイン・マネジメント研究科委員長

まえのたかし
前野隆司

あらゆる課題が大規模・複雑化する現代社会。学問分野を横断し、文系・理系の枠を超え、産官学の枠も超え、全体俯瞰的視点と緻密な視点を駆使して問題解決すべきではないか。このような問題意識のもと、大学院システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科は2008年に開設されました。すなわち、あらゆる問題をシステムと見据え、新たにデザインし、継続的にマネジメントする実学を構築し、それを学んだ者を輩出し、実際に大規模・複雑化する諸問題を解決しよう、というのがコンセプトです。ここでいうシステムとは、構成要素間が相互作用するものごと。デザインとは、新たな解決策を創造的に構築すること。マネジメントとは、多様な者が力を合わせ、組織やシステムをサステナブルに経営・運用・管理すること。学問基盤は、「木を見て森も見る」システムズエンジニアリングと、ゼロからのイノベーションを加速するシステム×デザイン思考です。

開設以来10年間の入学者は修士課程

761名、博士課程169名。約7割が社会人学生、約3割が新卒学生です。平均年齢は修士課程30・8歳、博士課程40・2歳。留学生は、19カ国から、修士課程125名、博士課程15名。海外大学との留学協定も活発です。学生の職種は、会社員、経営者、法曹、医療、教育、アート、スポーツなど、さまざまです。

開設から10年の間に、あらゆる分野における技術・社会システムはさらに大規模・複雑化し、我々の学問の必要性は従来以上に増していることを実感しています。この間、多くの産官学連携研究を実施して成果をあげてきました。また、学術界や研究機関で活躍する者から、企業内で新規事業を起す者、新たに起業する者まで、多くの先導者を輩出してきました。これからも、「木を見て森も見る」視点から、大規模・複雑化する諸問題を解決する活動を加速していく所存です。人類の英知を結集し、よりよい社会を構築するために、今後とも指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。